

庁議の概要

開催日：H19.4.23

項目

1 新たなプロジェクトチームについて【総務部】

内容

1 新たなプロジェクトチームについて【総務部】

総務部より、二つの新たなプロジェクトチームの「設置計画書」と「工程表」の案の例示を基に新たなプロジェクトチームの説明があり、議論を行った。

【説明概要】

- ・ 前回の庁議で説明を行ったが、「設置計画書を作ってみたらイメージが湧くのではないですか」という話があったので、「ネーミングライツ推進プロジェクトチーム」と「職員住宅の利活用・処分対策プロジェクトチーム」について、見本を作成した。
- ・ 前回の庁議の中で、「プロジェクトチームで決めたことは、絶対にやるのか。やるように決めていかないと、今までの事例から言って、なかなか進まないのではないか。」という意見をいただいたが、まずはプロジェクトチームを作る時、立ち上げの時に、知事・副知事・部局連携官・部局長でベクトル合わせをしておくことが重要ではないか。
- ・ 当然、知事の決裁も取る訳なので、立ち上げたからには、新たな知事ミッションとして捉えていただくことになるだろう。しかしながら、場合によっては出来ない場合も想定されるわけで、白か黒かはっきり行かない場合もあるだろうが、やるつもりで進めていくということである。

【主な意見】

- ・ 職員住宅については、基本的に処分するという考え方なのか。
知事部局、教育委員会、警察で職員住宅を持っているが、現在は、部屋が空いている状態であり、職員数は減っている。他用途に使っているものもあるが、集合住宅の中で1～2部屋では使いにくい。だから、トータルで確保する部屋数を決めたら、空いた部屋を集合させ、一棟空けていく、そうすれば処分しやすい、利活用しやすいということである。他方、中山間地域の職員住宅は売ることが難しいため、移住促進や市町村の地域振興に活用するなど思い切った対応を考えたい。
- ・ お金の面でいえば、処分してしまえばスッキリするが、ある学校の卒業生が職員住宅を短期間借りたいという話があったが、手続きに時間がかかり借りられなかった。このような時のために、一部を空けておくということは考えていないか。どこかの部に管理を移管したとしても、利活用が進むのは一部である可能性も高い。
曖昧に空けておくと、処分が進まないので、使用の見込みがないものは処分する考えである。
- ・ 職員住宅は、プロジェクトチームでやるべきことなのか。担当部が「やるべし」で進めて、他部局と話をすればいいのではないか。
他用途に利用するところと、利用しないところを決めれば、話は早い。しかし、その次の、どういう活用が考えられるかは、(プロジェクトチームでの)知恵出しが必要である。
- ・ ネーミングライツの推進は、プロジェクトチームが設定のルールを作ったら、他部局もそれに縛られるものなのか。

今のところ、基本的なルールを作ったら、各施設の設置条例に基づき、各部局に合うように変えていったらと考えている。

【知事コメント】

職員住宅に関して、先ほどの質問がどうして出てくるかというと、管財課が自分たちの意識で、県庁の中での仕事の意識で書いているからではないか。書き出しが「職員住宅の集約化を進める」とあるから、「これは自分たちの仕事じゃないですか」という質問が出てくる。「各所の地域振興や地域活動にご利用いただくため」、「県民にご利用いただくため」という意識がない。自分たちの財産を処分するとか、自分たちが使っているものを自分たちの仲間内で使い合うという、身内の意識から一歩も出ていない。これでは、いくらプロジェクトチームでやってもダメ、ということ管財課をはじめとして皆に感じてもらわないといけない。

また、ネーミングライツについて言えば、「企業の地域貢献の受け皿を作る」というが、そんな売り手市場、綺麗事ではないだろう。「県有財産の命名権を企業にご利用いただくことで、得られる収入を施設の維持管理経費に充当し、・・・」ということではないか。県民に、企業にご利用をいただくのだ、そのためにどうやってこれを集約化しますか、その後、それを売却しますか、という話になっていく。その基本概念が、自分たちの仕事の意識から一歩も出ていないから、そこを是非考えて欲しい。また、成果のところ、ネーミングライツは「取り組む環境を作る」と言うから、分からなくなる。だから、質問にあったように、「統一ルールなのか」ということになる。成果は何かをはっきりさせないと、環境が出来たかどうかの主観的な話になってしまう。

最初の部長の説明で、「『プロジェクトチームで決めたことは、絶対にやるのか』という意見がありました。が、・・・」という説明が始まるのはどうなのか。「が、・・・」のところ、「そうじゃないんだな。」と受け止める。「原則はそのとおりで、これまでのプロジェクトとは違うものにしたい。ただ、具体的に進める時には、知事・副知事と協議をしながら、具体的にミッションを決めますので、中にはその性質によって、『やり切る』という書き方の出来ないものも一部あるかもしれません。」という説明を是非して欲しい。

プロジェクトチームをやる時は、利用者は県民・企業だということ、全てのものを県民にどう使ってもらうために、県民にどうプラスにするために、このプロジェクトを作るのか、という意識で目的を書いてもらいたい。そうじゃないと、自分たちの職場内の調整というプロジェクトの域を一歩も出ない。